

# 補習校の運営について

商工会会員の皆様には、いつもヒューストン日本語補習校の運営に関し多大なご協力を賜り、厚くお礼申し上げます。今日は補習校の運営についてご紹介できればと思います。

補習校というと、日頃から総領事館や商工会の御支援を頂いているため、公立校と思われる方もいらっしゃるかもしれませんが(かく言う私も、ヒューストンに赴任し、子供を補習校に通わせ始めた頃はそうのように思っていました)。が、正しくは[補習校ウェブサイト](#)にも記載の通り、商工会が設立した非営利法人「JEIH補習校運営委員会」を運営母体とする「私立」の補習授業校となります。文部科学省から派遣された校長先生の下で、平日は大半が他の職場で働く先生が、週末に日本語で国語や算数・数学などの授業を行っています。

運営についても、商工会会員企業から任命された私を含む8人のメンバーが運営委員として、収支管理や教職員の採用、商工会・総領事館・PTAはじめ関係者との調整、現地借用校や学区とのコミュニケーション、行事毎の広報活動等について、日々対応しています。尚、運営委員は現在、メーカー(東芝)、ユーティリティ(JERA)、鉄鋼(日本製鉄)、銀行(MUFG)、商社(三菱、住友、伊藤忠、三井)等の各企業(順不同/敬称略)から選出しておりますが、教育に高い関心をお持ちの企業或いは個人の方々がいっぱいすれば、是非奮って参加頂ければと思います!尚、全米の他の補習校ではPTAから運営委員を選出しているケースもあり、保護者、教職員と一体になった手作りの運営が、補習校の大きな特徴だと感じています。日頃の見守り当番等も正にその一つであり、補習校として2名の現地スクールボリスを授業時間中は常駐させておりますが、子供たちが安心して楽しく学校生活を過ごせるためにも、保護者の皆様のサポートが欠かせない状況であり、感謝を申し上げますと共に、今後も引続きのご協力を頂ければと存じます。

そんな補習校ですが、昭和46年(1972年)開校後、昨年3月で創立満50周年を迎えました。創立当初児童生徒数50名、6学級で始まったものが、日本企業の海外進出に伴い順次拡大、昭和53年(1978年)に200名、昭和63年(1988年)には400名を超える規模となりました。2000年代に入り一旦は300名前後にて推移しましたが、米国シェールガス革命等に伴いエネルギー産業が拡大したことで、2010年代半には在籍数500名を超える学校となりました。2010年代後半にやや縮小傾向となり、COVID19による海外異動の停滞等が重なり、補習校も完全オンライン授業となった令和3年(2021年)には400名程度まで落ち込みましたが、昨年来再び会員企業を中心とする駐在員派遣の再開もあり生徒数は増加、直近では511名まで回復し、キャンパスは日々子供たちの賑やかな声で溢れています。

補習校は週5日授業のある現地校や日本人学校と異なり、週末だけの授業です。多くは平日他の仕事をしつつ、限られた時間で子供たちが現地校で習わない日本語で授業を行う難易度の高い職業であるため、全米で先生のなり手が不足している状況です。幸いヒューストン校では、過去より熱意と愛情をもって指導を行う優れた先生方が定着すると共に、駐在員或いは定住者家族の中で熱意をもって教育に携わりたいという方々のご協力によって、なんとかこれまで人繰りを維持して来



七夕まつり

ております。教員免許は不問ですので、ご自身或いは周りの方々に、日本の未来を担っていく子供たちに知識と愛情を与えたい、という熱意のある方々がいらっしゃいましたら、大歓迎です。是非[学校](#)並びに運営委員までお知らせ頂ければと存じます。

人数も増え、様々な背景の子供たちが学ぶ中で、補習校としては「個性豊かに、仲間と共に、自ら学び続ける子ども」を育てることを教育目標として掲げており、現在特に次の二点に注力しています。

一点目は「体験に重点を置いた学び」です。日本語学習や知識量の獲得或いは受験勉強であれば、オンライン教材や塾でもカバーできるようになってきています。一方で、日本のコミュニティにおける社会性スキルの習得や非認知能力の育成、また同じ境遇にある仲間と時間を共有し安心感を育む、といった面で、補習校として役立てる部分があるのではないかと考えています。その為、授業では対話的学習、言語活動を重視している他、商工会会員企業のご協力を頂き、ヒューストンならではの体験学習としての[日系企業見学](#)(ダイキン、東芝、クラレ、カネカ)の開催、或いは



運動会

[ANA航空教室](#)、[JAXA協力による水ロケット発射実験](#)・日本人宇宙飛行士講演会、宇宙セミナー、[茶道教室](#)、書道教室、美術館・博物館見学等を、年間を通じて行っています。これらは日本人として海外で活躍している事例を身近に感じられるだけでなく、海外で日本人のルーツを確認できる経験でもあり、引続き継続していきたいと考えています。



書道教室

二点目は「個別最適な学び」です。多様な背景を持つ児童生徒の増加もあり、先生一人が週一回の授業をベースに、各生徒の得意不得意や進捗に応じて細かいフォローを行うことは、益々難しくなっています。本邦も同様の状況から、AIを利用して子供たちの理解度・進捗に応じて科目や分野の学習を進める取組が広がっておりますが、授業数も少なく、多様な子供が集まる補習校だからこそこういった取組が重要ではないか、との認識を持っています。その為、本邦でも高い導入実績を有するオンライン教材の「eライブラリ」を本年度試験的に導入することとしました。補習校は授業の少なさを宿題でカバーする必要がある為、ただでさえ現地校の宿題に加え習い事で忙しいようにしていると、「これ以上の負担は大変そうだな・・・」と自らの子供を見ていても感じますが、宿題量が徒に増えるということではなく、子供たちの学びに資する一つの選択肢として、子供たちに加え保護者、教員のフィードバックも頂きながら、継続的改善に努めて参りたいと思います。



節分

最後に、ヒューストン補習校に少しでも愛着を深めていただければと思います。簡単なトリビアをご紹介します。引続きのご協力をどうぞ宜しくお願い致します。

(教育委員長 中尾茂樹)